



令和元年度 学校だより

緑 柏

No. 171

長崎県立佐世保南高等学校

令和元年10月31日発行

発行責任者 下 釜 祐 保

東日本各地で、台風や大雨による被害が大きいことに胸を痛めております。
無念にも亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました皆さまに心からのお見舞いを申し上げます。一刻も早い平常の生活を取り戻されますことをご祈念申し上げます。

校長室の窓から

秋

校長 下 釜 祐 保



秋は夕暮れ。清少納言は、秋の夕暮れが趣深いという。最近、日没が早まり、夕暮れが早く感じられる。校庭を流れる犬尾川周辺では虫の声を聞くことができる。この贅沢な時間に、1、2年生は各部活動の新人大会の準備に奔走し、3年生は受験生としての準備に大忙しである。本校2年・柿原千尋さんが生徒実行委員長を務める、高校生の文化の祭典・県高校総合文化祭も目前に迫り、その準備にも多くの生徒らが実行委員としてエネルギーを注いでいる。高校生にとっては、授業を終えた秋の夕暮れ時も自己研鑽に貴重な時間帯である。

その“秋”を辞書で引いてみた。

- 1 四季の第三。夏と冬の間で、日本では9、10、11月をいう。暦の上では立秋から立冬の前日まで（陰暦の7月から9月まで）をいい、天文学では、秋分から冬至までをいう。
- 2 盛りを過ぎること。終わりに近づいていること。
- 3 和歌などで、男女の仲の冷める意味で「飽き」に掛けて用いる。

と、載っている。さらに、その後に「特別重要な時期の意で用いられる『危急存亡の秋』などの場合は『秋』を『とき』と読む」との記載があった。

危急存亡の秋。

中国の三国時代。劉備亡き後に、蜀は、子の劉禪が二代目皇帝を継ぐが、三国の中でも弱小国に陥る。宰相の諸葛亮は、劉禪に「今天下三分して、益州疲弊す。此れ誠に危急存亡の秋なり」（今天下は三国に分裂し、（蜀の領地の）益州は厳しい状況である。これは誠に国の存亡の危機である）と危機感をあおり、魏へ奇襲攻撃に向う。会社や組織などの存続がかかった重要な時期を指して使われる故事成語「危急存亡の秋」の由来である。「秋」という漢字には節目となる重要な「とき」を表す意味がある。

季節はまさに秋。3年生はいよいよ高等学校の課程の総仕上げ、2年生は高校生活の折り返し、そして、1年生は文理選択の最終決定の時期である。先日会った東大2年生も進学振り分けの時期と話した。あらゆる人にとって「秋」は人生の今後を決める決断の「とき」だ。

本校の「第一応援歌」にも「自在の威力 茲に得て 闘わんかな 秋到る」の歌詞がある。戦いの時をまさしく「秋」と表現して、本校の歴代の若人たちに力を与えてきた。

この頑張りどき、勝負どきを逃すことなく、我が人生に意味を成す「実りの秋」にしてほしい。

新人戦特集 (その1)

その2は11月号にて掲載予定です。以下は主な結果になります。
詳しくはWEBにて公開します。

部活動名	大会名	主な結果	
硬式テニス女	県新人戦	団体戦：2回戦（対 島原 0-3 負け）	個人戦：S 川原、福田 2回戦敗退 ：D 谷・川口 3回戦敗退 柴村・川原、小宮・川壽(2年) 2回戦（初戦）敗退
硬式テニス男	県新人戦	団体戦：2回戦（対 青雲 0-3 負け）	個人戦：S 2年森・北川・吉武・小宮 1年村岡 2回戦敗退 ：D 森・村岡 3回戦敗退(ベスト32) 吉武・藤瀬 北原・宮崎 2回戦敗退
男子バドミントン	地区新人戦	団体戦：初戦敗退	個人戦：S 2年今里 3回戦敗退（ベスト12）
女子バレー	地区新人戦	決勝トーナメント 2回戦：2-0 壱岐商業（敗退）	予選リーグ 2-0 川棚、2-0 佐世保商業
男子バレー	地区新人戦	優勝 決勝トーナメント 2回戦：2-0 対馬、準決勝：2-0 西海学園、決勝：2-0 佐世保	予選リーグ 2-0 佐世保西、2-0 壱岐
卓球	地区新人戦	男子団体戦：3位 男子個人戦：シングルス 優勝 迎颯斗 ：ダブルス 準優勝 迎颯斗・坂井李舟 3位 立石健人・北村洋人	女子団体戦：優勝 女子個人戦：シングルス 準優勝 谷川侑綺子 3位 谷川佳菜子 ダブルス 優勝 谷川佳菜子・北野雛詩
男子ソフトテニス	地区新人戦	団体戦：対 佐世保工業 0対2負け（2回戦敗退）	個人戦：2年 熊本雄 原 ベスト32 2年 片桐 財津 ベスト32
	県新人戦	団体戦：対 口加 1対2負け（1回戦敗退）	個人戦：1回戦敗
女子ソフトテニス	地区新人戦	団体戦：ベスト3（準決勝で清峰高校に敗退）	個人戦：1年 古庄・2年 江口 3位 2年 小田 さくら 近藤 香純 ベスト32
	県新人戦	団体戦 ベスト16（三回戦で長崎女子に敗退）	個人戦 1年 古庄・2年 江口 2回戦敗退 2年 小田 さくら 近藤 香純 1回戦敗退

人生の達人セミナー

変化を恐れず挑戦していく力



壇上で花束を贈呈する生徒と早野先生



早野 忠昭 先生の略歴

1958年生まれ。長崎県出身。一般財団法人東京マラソン財団事業担当局長・東京マラソンレースディレクター、日本陸上競技連盟総務企画委員、国際陸上競技連盟ロードランニングコミッション委員、スポーツ庁スポーツ審議会健康スポーツ部会委員、内閣府保険医療政策市民会議委員。1976年インターハイ男子800m全国高校チャンピオン。筑波大学体育専門学群を卒業後、高校教諭や、アシックスボウダーマネージャー、ニシ・スポーツ常務取締役を歴任。

10月24日（木）、長崎県にゆかりがあり、社会の第一線で活躍されている方からの経験を交えた実社会の厳しさ等の話を通して、21世紀をたくましく生き抜く力を身につけさせるとともに、人生観や倫理観、職業観の醸成に寄与する目的で心に響く人生のセミナーを開催しました。今年度は、東京マラソン財団の早野忠昭さんをお招きし、「変化を恐れず挑戦していく力」と題してご講演をいただきました。早野先生は、長崎県立口加高等学校を卒業後、筑波大学へ進学し、長崎県で高校教諭として活躍されています。陸上競技800m走でインターハイ優勝等の実績もあることから、その後は陸上競技に関連して最前線でご活躍されており、世界6大マラソンの一つである「東京マラソン」のレースディレクターや、国際陸上連盟の役員などを担われ、現在に至っております。

本講演の中で、早野先生のご自身の経歴を振り返りながら、自らが常に変化を求めて挑戦を続けてこられたことを、実体験を基にお話いただきました。特に長崎県の高等学校教諭を辞めて渡米した際のお話では、ご自身の苦心の一方、その苦労があったからこそ困難に立ち向かって挑戦することができる「パネ」ができたことを話して下さいました。「自ら困難な道を選ぶ」ことの意味や必要性が、生徒達に伝わったのではないかと思います。

地域清掃

自分たちの手で通学路を綺麗に

10月9日(水)に1・2年生で地域清掃を行いました。通学路や日宇駅周辺など、学校近隣の各所をクラスごとに分かれて清掃しました。校外では、胴付き長靴を履いて楽しそうに川を掃除する生徒、地面を見つめて必死にごみを探す生徒など、一生懸命活動に取り組む生徒たちの姿が見られました。生徒たちは、清掃活動を通して、普段とは違った視点から自分たちの暮らす地域を見つめることができたことと思います。また、生活美化委員や生徒会の生徒を中心にゴミの分別に取り組み、何気なく捨てているゴミを分別することの大切さをあらためて感じていました。

今回の活動を通して、自分たちが地域住民の一員であること、地域に貢献することの意義深さを感じることができた1日となりました。



川に入り掃除する生徒の姿。

今回は2年3～4組が担当

桜が丘特別支援学校との交流会

10月4日(金)午後、1年生15名(男子3名、女子12名)が交流会に参加しました。

まず、小グループに分かれてお互いに自己紹介をし、その後、花の苗を一緒に植えたり、ジェスチャーゲームなどのレクリエーションを楽しみました。生徒たちはみな積極的に交流し、時折、会場は大きな笑いに包まれ、楽しく思い出に残るひと時になりました。普段は勉強や部活動などで忙しくしている生徒たちも、共通の話題を見つけて盛り上がっていました。その場にいた誰もが、心が和む交流会となりました。

学校の校種が異なっても、同じ社会の一員としてお互いが認め合い、生きていくことの大切さを改めて認識する場の一つとして、この交流会がこれからも続いていけばと思います。参加してくれた生徒のみなさん、ご協力ありがとうございました。



交流会の
その他多数写真を
公開しています。



本校生徒と桜が丘特別支援学校の生徒

芸術鑑賞会『狂言』

10月16日(水)、本校体育館において芸術鑑賞会が行われました。

本校では、音楽、演劇、古典芸能の3つの分野を3年間で鑑賞します。今回は、三宅狂言会の方による『狂言』を実施しました。

狂言の解説から始まり、演目と演目の間にはワークショップも入るなど、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

狂言というと、難しいとか敷居が高いと思われがちですが、実際はそんなことはなく、室町時代から続く笑いは、現代に生きる我々をも魅了する素晴らしいものでした。



三宅狂言会による狂言「棒縛」の様子。

芸術鑑賞会のその他写真はコチラ



国際大通い学習会

実際の会場の雰囲気の中での学習会

10月5日(土)に、3年生を対象とした学習会を、長崎国際大学で実施しました。この会は、大学の雰囲気を肌で感じながら、自身の進路実現に向けて学習に取り組むことを目的として、毎年実施しています。また、長崎国際大学は、本校生徒にとってセンター試験の会場となる可能性が高く、本番に向けたシミュレーションという意味でも、大変貴重な機会になっています。生徒たちは落ち着いた雰囲気の中で、集中して自学や質問に臨んでいました。

午後からは、学習会と並行して学年育友会も開催されました。こちらでは、主に学年の状況や今後の日程、進路情報の提供などが行われました。休日にもかかわらずご出席いただいた保護者の皆様、誠にありがとうございました。



緊張感のある学習会。集中して自学を行い、質問等も積極的に行われた。その他写真を多数掲載しております。



高大連携講座

学問の面白さを知る

10月17日(木)の総合的な学習の時間に、2年生を対象とした高大連携講座を実施しました。この講座は、大学の講義を体験し、最新の学問の動向等を知り、学問の面白さにふれ、将来の夢、志や生き方などを考えるきっかけとし、進路意識の向上と学習意欲の向上を図るため毎年実施しています。本年度は長崎大学3名、長崎県立大学4名、佐賀大学2名、防衛大学1名の計10名の講師の先生により大学の紹介、各先生方の専門分野の講義をおこなっていただきました。講義を受けた生徒の感想を紹介します。

11月の主な行事予定	
2~3日(土日)	対外模試(全学年)
4日(月)	振替休日
6日(水)	生徒総会
13日(水)	スクールカウンセラー講話
16日(土)	Sプロ(3年)
26日~29日	二学期期末考査
30日(土)	Sプロ(3年)

詳しい行事予定はWEB版でご確認ください。
※「防災訓練」は紙面の都合上、掲載を11月に致します。



・自分は具体的な目標はさまっていますが医療関係に携わることも選択肢にあります。今回の講義で認知症の症状を学ぶことができ、その症状を少しでも和らげることが作業療法士の仕事内容の一つだと理解することができました。作業療法士にはコミュニケーション能力、共感性、協調性が重要だと改めてわかり勉強以外の活動を積極的に経験するべきだと感じました。

・今回の講義を聞いて、理工学部に進学するために数学、化学、物理をしっかり学ぶ必要性を改めて感じました。

・僕はエネルギーや環境問題対策について大学で学びたいと思っています。今回の講義では水素自動車についてでした。水素自動車の仕組みを学び、地球にとっても優しい技術だと思いました。しかし製造コストが大きく普及のための課題となっていることも学びました。これから進学に向け勉強をがんばらなければと思いました。